

## 2018 実習前期レポート

今学期の実習を通して、私は「日本語を教える」ということに関して様々なことを学ぶことができました。

まず、準備の過程を振り返ってみました。最初の授業（4/25）の準備では、慣れない教案や教材作り多くの時間を費やしました。教案についてはどういう流れで授業を進めれば良いのか、時間配分はどれくらいが適切か、いかに分かりやすい授業内容にするかなど細かい部分までとても悩みました。実際の授業を想像しながら流れを考えることは私にとってはとても難しいことでした。教材作りについては、授業を進めていく上で必要となる教材はどんなものか、しっかりと説明の補助となるようにするにはどうしたらいいかなど、最初の頃は特に色々なことを考え、悩みました。見やすく、理解しやすい教材を作りたいという気持ちでいっぱいになり、授業の流れを考えることよりも多くの時間を費やしてしまった時もありました。授業の回数を重ねていくうちに、自分たちの教材、教案をより良いものに少しずつ変えていかなければならないということに気づきました。まず、準備の前に一回一回の授業で学習者に最終的にどのような目標を達成して欲しいのかということを考えることが重要だということが分かりました。目標を最初に設定することで、それに向けて何をすれば良いのかが見えてきました。目標設定は授業の流れをつくる上で重要なことだと思いました。これは教師が授業計画を立てる場合に限らず、何事でも行動を起こす時に重要なことだと思います。教材もただ必要なものを作れば良いということではなく、しっかりと工夫を凝らすことでより分かりやすく、理解しやすいものになるということに気づきました。学習者が印象に残りやすいものにすることで理解も深まり、学習項目が頭に入りやすくなるのだと思いました。また、自分たちが作った教材ばかりを使うのではなく、時には、実物（生教材）を使ってみることも必要だと思いました。例えば、お店のメニューです。生教材を使うことで、学習者にとって授業がより楽しく感じられ、実際に同じようなものに出会ったときの心の準備ができると思いました。学習したことと外がつながることがこの教材のメリットだと思います。実際に相手のペアがこの教材を使っていて、楽しそうに活動する学習者が印象的で、これは効果的だと思いました。また、私は授業のテーマを決めてから教壇に立つまで、実習生同士（ペア）で一つの授業づくりをしたことで、協力し合うことの大切さを知ることができました。協力して一つのを完成させる、作り上げることは決して簡単なことではないと思いました。

教壇実習は、最初は「教える」という立場の責任感が私の中ではとても強く、前に立って上手く教えることができるのか不安でいっぱいでした。最初の授業は残念ながら緊張と不安からスムーズに授業を進めることができませんでした。視線が下がってしまっ

たり、間ができてしまったり、自分の思い通りの授業にはならず、とても悔しかったです。授業の回数を重ね、毎回の反省から私は自分自身の目標を持って授業をしようと決めました。私は「テンポよく、間をなくして授業を進めること」「声の大きさに気を付けること」「アイコンタクトをしっかり取ること」の三つを自分の中の目標とし、頑張ろうと思いました。DVDで実際の授業を振り返ってみて一番自分が変容したと感じたことは、アイコンタクトです。最初の授業と比べると少しずつ学習者に視線が向くようになったと思いました。自分の中の目標がすべて完璧に達成できた訳ではありませんでしたが少しずつ変わろうと意識している自分の姿を見ることができたと思います。

また、ひらがなの指導では、一文字一文字細かいところまで、時には英語を使って説明することが想像していたよりとても難しかったです。ひらがなも私たちが英単語を覚える時のように、書く・読むを繰り返すことが大事になるということが分かりました。回数を重ねるうちに留学生がだんだんと字を丁寧に綺麗に書けるようになるのを見て教える側の私自身もうれしくなりました。

三か月の実習を通して多くの改善点が見つかりました。授業をテンポよく進めることは良い授業にするために大事な事の一つですが、自分自身がそのことに精一杯になり学習者への配慮がしっかりできていなかったと思いました。教案にすぐに目が行ってしまっていたので授業準備の段階でだいたいの流れを覚えておくことも大事だと思いました。そして学習者の反応を見ながら臨機応変に対応することの大切さと大変さを知ることができました。また、私は学習者の反応があまり良くない時など、自分に自信がなくなった時にどうしても声が小さくなってしまうということに気づいたので、そうならないように努力していきたいと思いました。教師の声が学習者の声に負けていては学習者までも不安な気持ちにさせてしまうと思うので気を付けたいと思います。これらの反省を後期の授業改善に役立てていきたいと思いました。